

令和6年度 大野城市立大城小学校 校長便り

第5号

(令和6年5月17日 金曜日)

【文責】校長 弘松 英樹

大城の風

～校長室の窓から～



本校ホーム
ページは
こちらから←

「競争」から「協働」へ

運動会のシーズンとなり、子どもたちの元気な掛け声や熱心に応援する声が聞こえてきます。昔から、学校の運動会と言えば、地域の一大行事でもあり、大人になっても思い出に残っているという方が多いのではないのでしょうか。

でも、運動会に向かう子どもの気持ちは人によって違いがあるようです。運動が得意で運動会を楽しみにしている子もいれば、運動が苦手だったりして、少し不安があるという子もいるかもしれません。行事が近づくと、いつもと違うことが増えます。そのことも特別感があって嬉しい子もいれば、いつも通りでないことに戸惑いを感じる子もいます。



【藤は たくさんの花が集まることで
その美しさを私たちに見せてくれます】

大城小学校では、どの子も少しでも「参加したい」「参加しやすい」と思える運動会を目指したいと考えています。そのためには、みんなで関わり合う、協力することの楽しさや嬉しさを味わうことが大切ではないかと思えます。運動会と言えば、競技を通して勝敗を競い合う側面があります。それは、大切なことではありますが、必ずしも競い合わないといけないだろうかということを時々考えます。子どもたちに目標をもたせるとき、友達との関わりや協力などの「協働」する場合は「全員が同時に到達できるような目標」になります。一方、「競争」する場合は「一人でも目標に到達すれば、他の人は達することができない目標」になります。学校教育においては、競技として競争することはあくまでも手段であり、目標や目的ではありません。友達のことを思いやり、一緒に「協働」することで、人と比べずに自分たちが成長できたという実感をすべての子にもたせることができれば、素晴らしい運動会だと思うのです。

運動会ではダンスなどの表現種目や、綱引きなどの競争遊戯があり、勝敗に関係なくみんなでそろう動きをしたり、それぞれが全力を出すことでチームに貢献したりして「協働」の場面をつくっています。今の社会は、「勝ち組にならなければ」「何者かにならなければ」という空気があるように感じます。でも、本当に社会で輝いているのは、周りの人と協力して、失敗や困難も笑顔で乗り越えようとしている人ではないのでしょうか。人と自分を比べている以上、本当の幸せは見つからないと私は思います。子どもたちの将来、一人一人が自分らしく、人との関わりを楽しみながら幸せに生きることのできる社会であることを願っています。